

二百年目の賛辞、あるいは未来への誓い

推歩先生（あまりに熱心に天文観測に勤しんだことからそう呼ばれていたそうですね）、あなたが幾度となく見つめ、中象限儀で測った天空にあなたご自身が旅立ってから、ちょうど二百年の歳月が流れました。

地球の大きさと形を知りたい、子午線一度の長さを知りたい——、その思いが募り、ついにあなたは隠居後の寛政十二年（一八〇〇）閏四月（新暦六月）、全国測量の一步を踏み出しました。五十五歳のときでしたね。

以後、足かけ十七年にわたって全国津々浦々をあなたは歩き尽くしました。あなたが歩いた距離は、実に四万歩に及びました。

（驚異の数字をさらに示せば、測量に協力した人の子孫が全国に約一万二千人いることが判明しました）

あなたのこの途方もない足跡がやがて功績となって開花・結実しました。それが、比類のない正確さと芸術性を備えた「伊能図」即ち「大日本沿海輿地全図」です。

* * * * *

忠敬さん（親しみを込めてこう呼びかけることをお許しください）、

全国測量を開始する前のあなたは、佐原村の名主やその上に立つ村方後見を務め、

深い郷土愛と使命感をもって郷土のために尽くしました。

飢饉や凶作で村が困窮した際（天明年間には大飢饉もありました）、

あなたは私財を投げ打って人々を救いました。

利根川の洪水で被害を受けることの少なくなかった土地柄です。

あなたは堤防修築など普請事業にも心血を注ぎました。

そのほかにもあなたの功績は枚挙に暇がありません。今も語り継がれています。

あなたが愛し育ててくれた郷土はその後、町域の変遷や拡大を経て成長してきました。平成十八年（二〇〇六）には佐原市、小見川町、山田町、栗源町の一市三町が合併し

香取市が誕生しました。

この間には千年に一度ともいわれる大災害が東日本を襲いました。

あなたが困難を極めながら測量した三陸をはじめとする太平洋側の美しい海岸を津波が襲い、瓦礫が山を成しました。

ここ香取市でも道路や建物が損壊し、川の護岸が崩れるという甚大な被害に見舞われました。

あなたの時代から続く歴史的な町並み・重要伝統的建造物群。その屋根は暫くの間ブルーシートに覆われました。

でも忠敬さん、おかげさまでこのまちには、郷土愛と助け合いの精神が脈々と受け継がれていました。

「つなごろう かとり」の想いのもと、市民が一体となって復興への取り組みを進め

震災前よりさらに魅力に包まれたまちへと変貌することができました。

そうそう、忠敬さん、このところ香取市は嬉しいニュースに彩られています。

あなたが生まれる前から始まり、今も盛大に繰り広げられている佐原の大祭・山車行事が

二〇一六年十二月にユネスコの無形文化遺産に登録されました。

先立つ同年四月に香取市は、佐倉市・成田市・銚子市とともに

「北総四都市江戸紀行」として日本遺産に認定されました。

それに、水郷佐原あやめパークがつい先ごろリニューアルオープンいたしました。

* * * * *

ときは二〇一八年春、小野川のしだれ柳が芽吹き、新緑が輝き始めました。

あなたの旧宅前にある樋橋からは、三十分おきにジャージャーと音を立てて水が流れています。

橋を渡れば伊能忠敬記念館。国宝「伊能忠敬関係資料二三四五点」を所蔵しています。

全国から多くの人が訪れ、あなたの偉業に感服の声を上げています。

北へ一本隣る橋が「忠敬橋」です。橋の下をサップボートが行き交い、橋の上を人々が往来しています。

視界を広げれば、香取神宮・観福寺・小見川城山公園・黒部川・府馬の大クス・

道の駅くりもと紅小町の郷と道の駅水の郷さわらなどなど、このまちは豊かな文化・観光資源に恵まれています。

まちのあちこちに豊饒の大地が広がり、人々の笑顔が咲いています。

この四月からは、香取市第二次総合計画のもと新しいまちづくりが始まります。

未来にもっと輝く香取市、日本に誇れる、世界に誇れる香取市を私たちはつくっていきます。

その誓いとしてここに、あなたの事績を振り返るとともに、日々成長しているまちの姿を一冊にまとめました。だから忠敬さん、これからも天空からこのまちを見守ってください。

伊能忠敬没後二百年（平成三十年）三月

香取市民一同

特集1◎伊能忠敬 天を測り地を量る	4
特集2◎世界遺産・日本遺産のまち香取	22
香取市12年の歩み	28
第2次総合計画 概要版	34
香取辞典	45
統計資料で見る香取市	53
香取素描	60
発行にあたって	66
伊能中図（部分）	[別冊]

目次

Foreword In commemoration of the 200th anniversary of the death of Ino Tadataka A tribute of praise in the 200th year, and vow for the future.

Dear Mr. Ino Tadataka: The hometown that you loved is called Katori City today, and is marking the twelfth anniversary of its creation. In 2011, Katori was hit by the Great East Japan Earthquake, but we have rebuilt with the strength of our love for Katori and the spirit of mutual assistance. Recently, Katori City has been excited about a number of pleasing news. its Sawara Float Festival has been registered on the Representative List of the Intangible Cultural Heritage of Humanity, Katori City has been designated as a Japan Heritage Site, and the Suigo Sawara Ayame Park has reopened. Now it is the spring of 2018. We promise to make Katori shine even more brilliantly in the future, so that it will become a community which we can boast to the people both within the country and throughout the world. March 2018, the 200th anniversary of the death of Ino Tadataka